

# **島本町文化財調査報告書**

**第 33 集**

**青葉遺跡 B 地点発掘調査概要報告**

**平成 30 年 3 月**

**島本町教育委員会**



## 序 文

本報告書は、原因者による共同住宅建設工事に伴って、平成28年度に実施した発掘調査成果を報告するものです。

当調査地は、西国街道を挟んで、青葉遺跡と斜向かいに位置することから、青葉遺跡が当調査地まで広がっている可能性があったため、平成27年度に試掘調査を実施しました。その結果、弥生時代の竪穴建物跡を検出し、当調査地まで青葉遺跡が広がっていることが確認できたため、共同住宅建設工事着工前に発掘調査を実施しました。

本町の弥生時代の遺構の検出例は少なく、その様相を知る手掛かりは多くありません。このような状況の中、今回の調査は、弥生時代の本町の歴史を解明する一端となるものと考えます。

また、試掘調査終了後、元の青葉遺跡は「青葉遺跡A地点」と名称が変更され、当調査地は「青葉遺跡B地点」として埋蔵文化財泡蔵地に認定されました。近年、本町では大規模開発が続いている中、平成26年度の試掘調査でも、桜井地区で新たな遺跡が発見され、「西浦門前遺跡」として認定されました。未発見の文化財も含め、本町には数多くの文化財が存在し、これらの文化財を保護・保全し、守り伝えていくことが私達の大切な役目と考えます。

最後になりましたが、調査にあたりまして、多大なご指導、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました土地所有者の方や近隣の皆様方には、紙面をおかりして深く感謝しお礼を申し上げますとともに、本町の文化財保護行政に対し、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

島本町教育委員会  
教育長 岡本克己

## 例　　言

1. 本書は、平成28年度原図者負担金事業として、大阪府教育庁文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した、青葉遺跡B地点の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局教育こども部生涯学習課職員岩崎誠を担当者とし、試掘調査は平成28年4月1日に着手し、平成28年4月20日に終了し、島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査及び報告書作成業務を実施し、平成30年3月31日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)

【調査員】 岩崎　誠　坂根　瞬

【調査補助員】 原　由美子　布施　英子　竹村　洋香　萱原　朋奈

4. 本書の執筆は岩崎が行い、作成・纏集は岩崎・木村・坂根が行った。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用及び本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。

## 凡　　例

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海面 (T.P. [Tokyo Peil]) を基準とした数値である。方位は、国土座標第IV系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。
3. 遺構記号については、以下の通りである。  
P : ピット　　S X : 性格不明遺構
4. 本書で使用している北は、特に断りのない限りは「真北」を示す。

## 目 次

序文

例言・凡例

目次・挿図目次

付表・図版目次

第1章 はじめに

第1節 島本町の地理的概要	1
第2節 島本町の歴史的環境	1
第2章 調査の概要	
第1節 青葉遺跡B地点（AB16-1 簡本）発掘調査	3
(1) 調査経過	3
(2) 層位	3
(3) 検出遺構	6
(4) 出土遺物	6
(5)まとめ	12

## 挿図目次

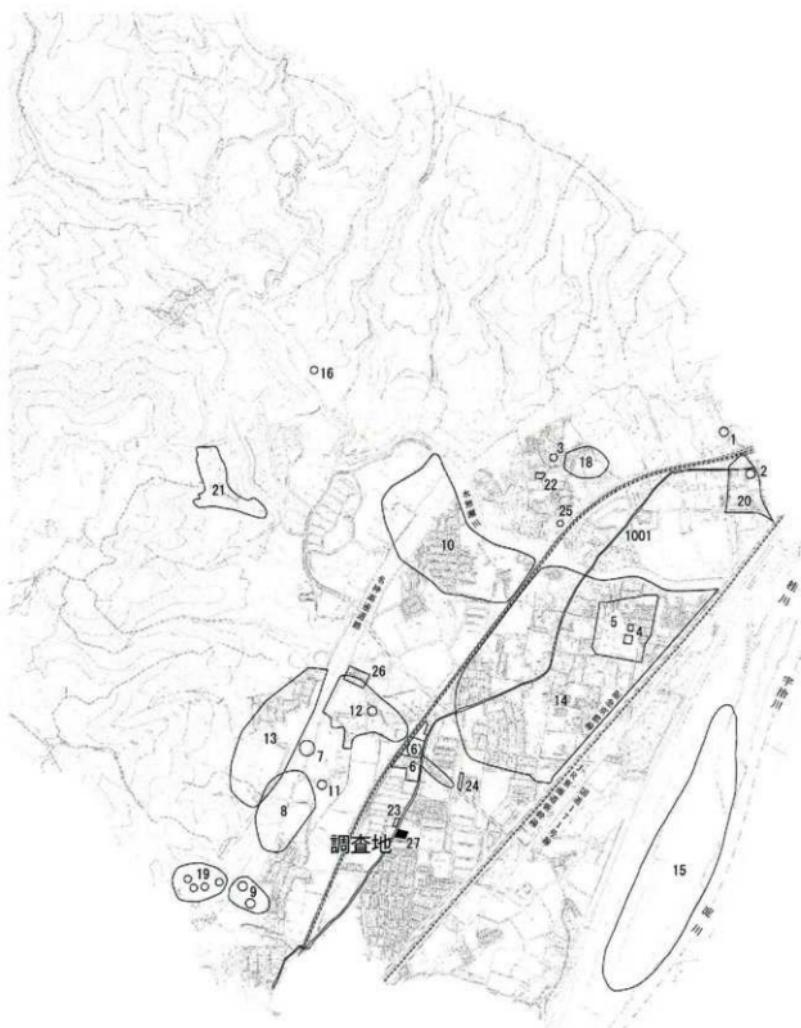
第1図 町内遺跡分布と本書掲載調査地位置図（1/20,000）	
第2図 調査地位置図（1/5,000）	4
第3図 調査区配置図（1/250）	5
第4図 調査工区土層図-1（1/50）	7
第5図 調査工区土層図-2（1/50）	8
第6図 調査工区土層図-3（1/50）	9
第7図 第1・第2工区遺構配置図（1/100）	11
第8図 出土遺物実測図（1/4）	12
第9図 調査着手前の工区設定風景（南東から）	

## 付 表

付表1	本書掲載調査	-----	3
付表2	報告書抄録		

## 図版目次

図版一	(1) 第2工区全景(西から)
	(2) 第1工区全景(西から)
	(3) 第2工区土坑S X02(西から)
	(4) 第2工区土坑S X03・04(西から)
図版二	(1) 第3工区全景(北から)
	(2) 第4工区土器出土状況(東から)
	(3) 第4工区全景(西から)
	(4) 第5工区全景(西から)
図版三	(1) 第3工区洪水流路堆積砂礫(西から)
	(2) 第2工区洪水流路堆積砂礫(南から)
図版四	(1) 出土遺物
	(2) 出土瓦
	(3) 出土石皿



1. 山崎古墓 2. [府指] 有文 開大明神社本殿 3. 烧谷豆麻跡 4. [重文] 水無瀬神宮宮室・客殿 5. 水無瀬御宮跡 6. 桜井駅跡 (6) [史跡] 桜井駅跡 (権正成伝説地)  
 7. 佐持宮小伴從基 8. 越谷道路 9. 淀音山道路 10. 水無瀬花跡 11. 御所池瓦窯跡 12. 桜井道路 13. 桜井御所跡 14. 広瀬南道路  
 15. 広瀬南道路 16. [府指] 天 尺代のやまもも 17. [府指] 天 大沢のすげ 18. 山崎西道路 19. 神内古墳群 20. 山崎東道路 21. [府指] 天 老山神社のツブラジイ林 22. 御所ノ平道路  
 23. 青葉道路A地点 24. 広瀬渓田道路 25. 烧谷道路 26. 西浦門町道路 27. 青葉道路B地点 1001. 西国街道

第1図 町内遺跡分布と本書掲載調査地位置図 (1/20,000)



## 第1章 はじめに

### 第1節 島本町の地理的概要

島本町は、大阪府の北東端、京都府との境に位置する。北は京都府京都市西京区と京都府長岡京市、北東は京都府乙訓郡大山崎町、東南は京都府八幡市、南は大阪府枚方市、西は大阪府高槻市に隣接する。

本町の面積は、約16.81km<sup>2</sup>で、その約7割が北西部に広がる西山山塊の山岳・丘陵地である。そこには、大阪府の天然記念物に指定されている「大沢のすぎ」、「尺代のやまもも」、「若山神社のツブライジ林」が所在し、豊かな自然が保たれている。詳細をみると、かつてアカマツ林が広がっていたが、現在は広葉樹林に主役を奪われている。本町の南東は、京都盆地から流れ込む主要三大河川の桂川、宇治川、木津川が合流し、淀川となって大阪平野に注いでいる。淀川は、古代から重要な交通路として活用され、各所に津が置かれ、近世では「くらわんか船」が栄えた。平野部は、山岳・丘陵地と淀川に挟まれた狭い範囲である。この狭小な平野部には、山陽道（西国街道）が通過し、大阪と京都を結ぶ交通の要衝として栄えた。この平野部の北半部には、山地から流れ出る水無瀬川が所在し、平野部をうるおして桂川に流れ込んでいる。また、平野部の伏流水は、今も良水を保っている。後鳥羽上皇の水無瀬離宮にちなんで名づけられた水無瀬神宮の「離宮の水」は、昭和60年（1985）7月に大阪府で唯一、環境庁認定の「名水百選」に選ばれている。人口の推移をみると、昭和30年（1955）以前は人口一万人足らずで、平野部にはのどかな農村が広がっていたが、平成2年までの間に急増し、現在は三万人に迫る勢いで増え、最近では山沿いへの宅地化が進んでいる。本町の東辺部には国道171号線が通過して主要交通幹線となっており、平成20年（2008）にはJR東海道本線に島本駅が開設され、商工業を支えるとともに、衛星都市のベッドタウンとして発展している。

### 第2節 島本町の歴史的環境

島本町には、国指定史跡桜井駅跡をはじめとして、多くの遺跡などの文化財が所在している（第1図）。

島本町における人々の生活の始まりは、旧石器時代にさかのほる。段丘の立地に位置する山崎西遺跡では、国府型ナイフ形石器や剥片数点が採集されており、後期旧石器時代に、狩猟採集生活の移動拠点がここにあったことを物語っている。その後、人々の生活痕跡が長期にわたって途絶えているが、段丘の立地にある越谷遺跡では、縄文時代後期の土器が多数出土しており、ここに集落が営まれたものと考えられている。広瀬遺跡では、縄文時代晚期の竪穴住居が検出され、生活拠点の沖積低地への進出が確認された。沖積低地への移行は、水稻農耕文化受容に大きくかかわっているものと思われる。

その後少し時期を経た弥生時代では、明確な集落遺構の検出はないが、遺物散布状況から、前期に桜井駅跡付近に集落が構えられ、引き続き青葉遺跡や広瀬遺跡の南辺部に広がりを見せる様子が明らかになってきた。弥生時代後期についても、遺物の散布状況から、越谷遺跡や桜井駅跡付近に集落が想定されている。

古墳時代の集落も、明確な遺構は検出されていないが、広瀬遺跡北西部や越谷遺跡などで、後期の土器散布が確認されている。源吾山古墳群は、この時期の首長墓群と考えられる。

奈良時代には、鈴谷瓦窯が造営され、この瓦窯に程近い御所ノ平遺跡では、瓦窯とほぼ同時期と考えられる竪穴住居が検出されており、瓦工人の住居との見方がある。水無瀬川の中流右岸には、奈良・正倉院に伝わる「摂津国水無瀬絵図」から、東大寺領莊園「水無瀬莊」があったことが分かる。奈良時代から平安時代にかけては、山陽道（西国街道）の山崎駅家（延喜式）、大原駅家（続日本記）、桂川の山崎津（土佐日記・更級日記）などが文献に登場する。大原駅家は、桜井駅跡に推定されている。また、桓武天皇や嵯峨天皇が頻繁に遊獵に訪れている。9世紀後半には、惟喬親王の御殿が、水無瀬にあったと言い（伊勢物語）、広瀬遺跡で検出される平安時代前期の建物群は、惟喬親王の水無瀬離宮関連施設と考えられている。

鎌倉時代には、後鳥羽上皇が正治元（1199）年に水無瀬離宮を造営し、頻繁に訪れている（明月記）。この水無瀬離宮は健保4（1216）年に洪水倒壊し（百鍊抄）、翌年源通光により眺望の良い山のふもとに移して再建されている（明月記）。広瀬遺跡からは、水無瀬離宮に関わる建物跡や所用瓦、西浦門前遺跡からは、庭園施設などが検出されている。この水無瀬離宮は、承久3（1221）年の承久の変による後鳥羽上皇の隠岐配流とともに衰退し、弘安8（1285）年の中務内侍日記には、荒廃して見る影もなくさみしい様子が描かれている。

室町時代への過渡期、太平記で有名な楠公父子の別れの名場面となった史跡桜井駅跡がある。この史跡は、延元元（1336）年足利尊氏の大軍を迎撃つため京都を発った楠木正成が、ここで長子の正行に遺訓を残して河内へと引き返らせた「楠公父子別れの地」として広く世に知られ、現在もこの地を訪れる観光客は後を絶たない。

## 第2章 調査の概要

### 第1節 青葉遺跡B地点（AB16-1 簡本）発掘調査

調査期間：平成28年4月1日（金）から平成28年4月20日（水）

調査地：大阪府三島郡島本町青葉一丁目179-1

調査面積：約162m<sup>2</sup>

#### （1）調査経過

当事業は、開発対象地が平成27年度青葉地区遺跡範囲確認調査によって青葉遺跡の範囲内（青葉遺跡B地点）にあることが明らかになったため<sup>(1)</sup>、共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査として実施した。調査対象地は、JR島本駅の南約300mに位置し、西辺は西国街道で限られる（第2図）。立地は、標高約9.5mの沖積低地である<sup>(2)</sup>。調査着手前の調査対象地は、盛土造成された更地であった（第9図）。調査区の配置は、建築計画が東西2棟と南北1棟の「コ」の字形配置であることから、建物計画配置に合わせて設定した。当調査対象地は、既存調査により造成盛土の軟弱性が予想されたため、5つの工区に分けた。つまり、対象地南部の東西棟予定位置を第1工区と第2工区、東部の南北棟予定地を第3工区、北部の東西棟予定位置を第4工区と第5工区とした（第3図）。調査工区の長さは、第1工区と第2工区が約18.2m、第3工区が約12.5m、第4工区と第5工区が約16mで、幅は各工区ともに約2mとした。調査工期は、最初に第1工区と第5工区、次に第2工区と第4工区、最後に第3工区とした。調査深度は、各建物の基礎掘削計画深度により決定した。つまり、北側東西棟と東側南北棟の計画位置に設定した第3～5工区は、地表下約1.4mの深さまでの調査とし、南側東西棟は、地表下約1.7mまたは地山面での調査とした。

#### （2）層位（第4～6図）

基本的土層は、第1層の宅地造成盛土、第2層の旧水田耕作土、第3～37層のシルトまたは砂礫、第38層以下の粘土に分けられる。周辺部の調査から、基本的にシルト堆積層内に第一遣構面から第三遣構面まであり、粘土堆積上面に第四遣構面、粘土堆積層内に第五遣構面があるとされている。なお、第2工区の東半部では、当調査対象地の整地前にあった建物の基礎解体工事に伴い、広範囲に激しい搅乱を受けていた。

地区名	遺跡名（次数）	調査地	調査面積	調査期間
青葉地区	青葉遺跡B地点 (AB16-1)	島本町青葉一丁目 179-1	約162m <sup>2</sup>	平成28年4月1日～ 平成28年4月20日

付表1 本書掲載調査



第2図 調査地位置図 (1/5,000)

当調査では、第3層直下の面が第一造構面と考えられる。第16層や第17層を削り込んで堆積した第4・10~14層（第5工区）、溝状シルト堆積の第22・26層（第1工区）、洪水流路堆積と考えられる第15・31層（第3工区）や第23・25層（第1工区）の砂礫や砂の堆積（図版三（1）（2））などがある。

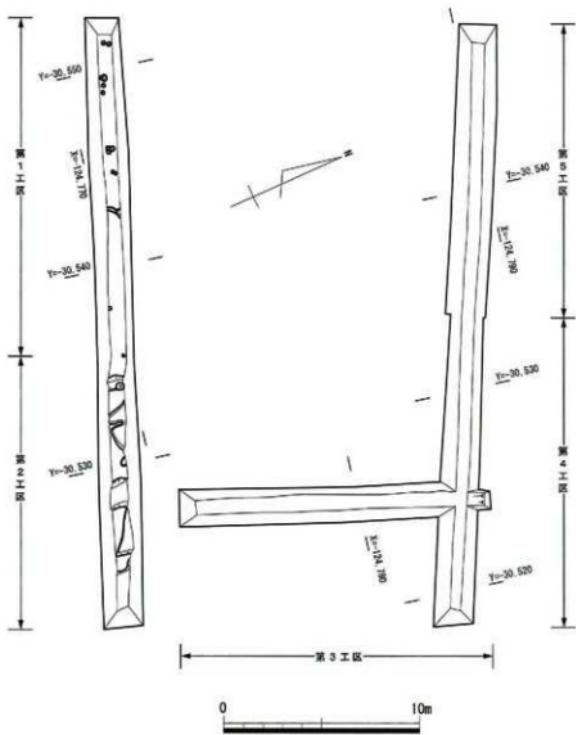
当調査の第35・37層上面が第二造構面と考えられ、第1・2工区には見られず、第3~5工区で確認できた。第5工区西壁面には、第37層を掘り込む杭跡状の痕跡があった（第6図下段）。

当調査の第38層上面は、第四造構面と考えられ、第1~5工区の全工区で確認できた。この面は、第2工区の東部から第1工区西部および第5工区中央部に向かって、すなわち当対象地の東から西方向に緩やかに上がっていった。また第5工区の西半部では、再び緩やかに西に向かって下っていた。この土層面を掘り込む遺構は検出されなかった。第38層には、各工区で弥生土器が含まれていた。弥生土器の出土量は少ない。

第3~5工区では、第38層中位から下位にかけての深さまでの調査となつたが、第1・2工区では、第38層以下に黒色系の第42・43層、黄橙色系の第46層の粘土層堆積を確認した。第2工区では第38層と第42層の間に、中粒焼上塊の集積が見られた。同様の焼土塊集積は、第1工区や第5工区でも第38層中位で検出したが、明確な造構輪郭は観察できなかつた。また、第2工区東部において、第42層を削り込んだ自然流路堆積と考えられる砂層（第39層）が観察でき

た。

第1～第2工区では、第38・42層が各々20cm前後の厚さで堆積していた。第43層は、第1工区西端から中ほどまでは厚さ20cm前後で、第2工区西半部では厚さ10cm前後と薄く、また堆積の見られない部分もあった。第42層直下が第五遺構面に当たると考えられる。第43層は第五遺構面で検出される黒褐色粘土層堆積と解せる。



第3図 調査区配置図 (1/250)

以下の堆積は第46層で、無遺物地山層と思われる。第46層上面では、柱穴状遺構群や不定形土坑群を検出した。この検出面を第六遺構面と呼ぶ。第43層の堆積がない部分では、第五遺構面と第六遺構面が同一面となる。

このように、旧水田耕土以下第四遺構面（第38層）までの堆積は、度重なる洪水堆積を示し、周辺部の調査での第三遺構面は確認できなかった。第四遺構面以下の第38・42・43層は小石や砂を全く含まない粘土堆積で、湿地堆積層と考えられる。第46層は土層中鉄分の酸化による黄橙色の色調で、地表面になった時期があることを思わせる。この層も、砂礫や小石を含まない粘土層である。

#### （3）検出遺構（第7図）

##### 【柱穴状遺構群】

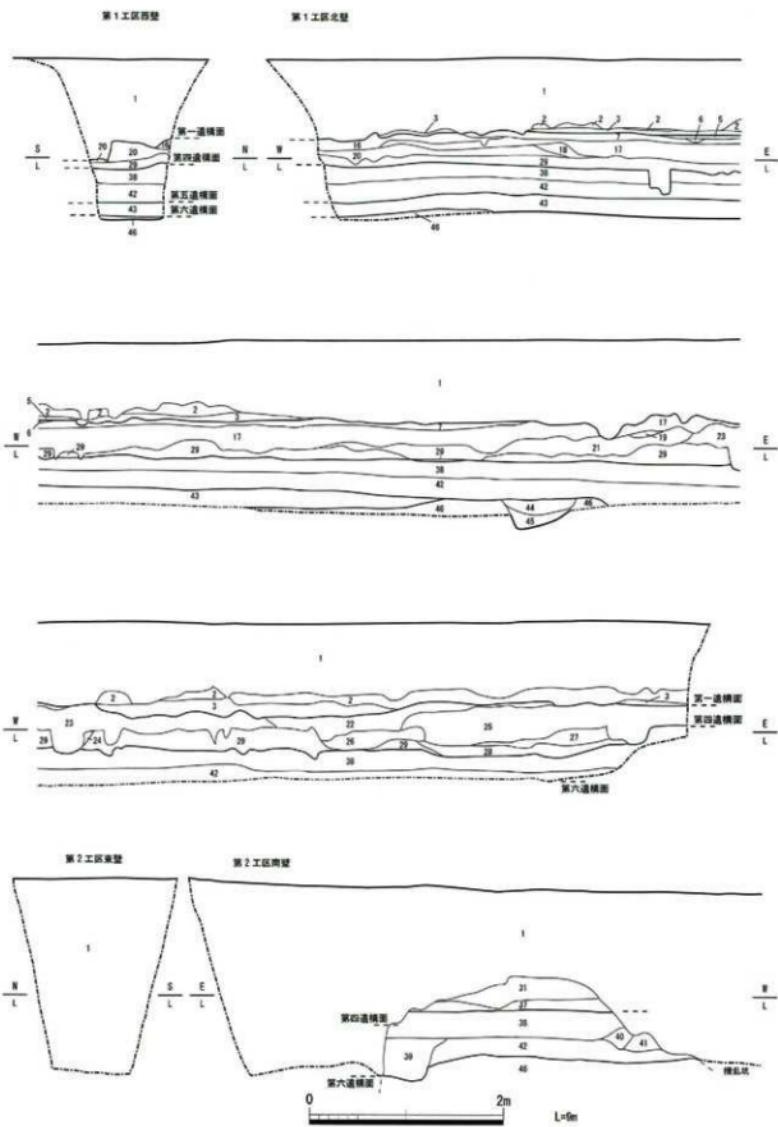
第1工区第46層上面（第六遺構面）で検出した遺構群である（図版一（2））。直径10~20cm前後、深さ20cm前後の平面円形の遺構群（P 1～P 12）である。埋土から灰白色系粘土のP 11、灰色系粘土のP 7、黒色系粘土のP 1～6・8～10・12に分けられる。黒色系埋土を持つP 9から弥生土器小片1点が出土した。他の柱穴状遺構からは出土遺物はなく、時期を確定できないが、灰白色系粘土の埋土を持つP 11が最も新しく、第38層より上からの掘り込みと考えられる。灰色系埋土を持つP 7は、これより古いと考えられる。黒色系埋土を持つものはさらに古く、P 9出土遺物から弥生時代またはそれ以後の所産と考えられる。当遺構群の形状は柱穴状を呈するが、明らかに柱穴といえるものではなく、性格は不明である。

##### 【不定形土坑群】

第1・2工区第46層上面（第六遺構面）で検出した土坑群である。平面形が梢円状のもの（S X01・02）や、一辺が直線的であるが、全形が分からぬるもの（S X03・04）などがある（図版一（3）（4））。後者（S X03・04）は、平面検出時点では、竪穴住居の一部と思われたが、精査しても周壁溝や主柱穴は検出できず、竪穴住居の可能性は低いと考えられ、性格は不明である。深さは、いずれも10cm前後である。埋土は、いずれも黒色系粘土である。各土坑からの出土遺物は皆無であった。したがって、時期を確定できないが、弥生土器片を出土した柱穴状遺構P 9の埋土と類似することから、弥生時代の所産と考えられる。

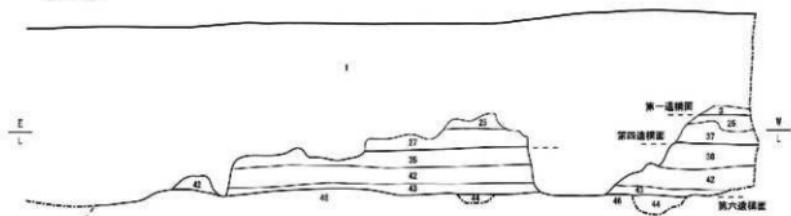
#### （4）出土遺物

各調査区第38層から少量の弥生土器が出土したほか、柱穴状遺構P 9から弥生土器小片1点、第1工区壁面崩落土から、凸面縄目タタキで凹面コビキ跡を残す橙灰色に焼成された平瓦1点、第1工区の調査区整形時にサヌカイト剝片1点、第1工区第38層の焼土塊集積部東側から石皿



第4図 調査工区土層図-1 (1/50)

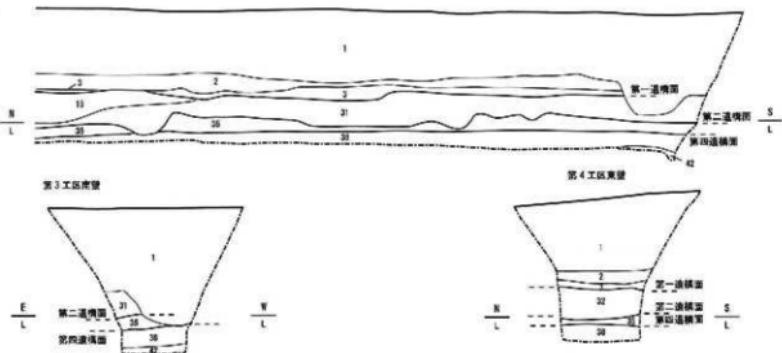
第2工区地盤



第3工区地盤



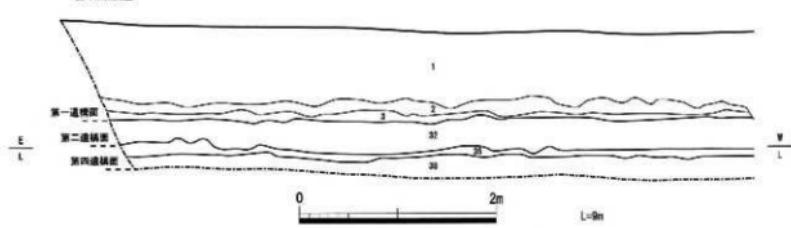
第3工区地盤



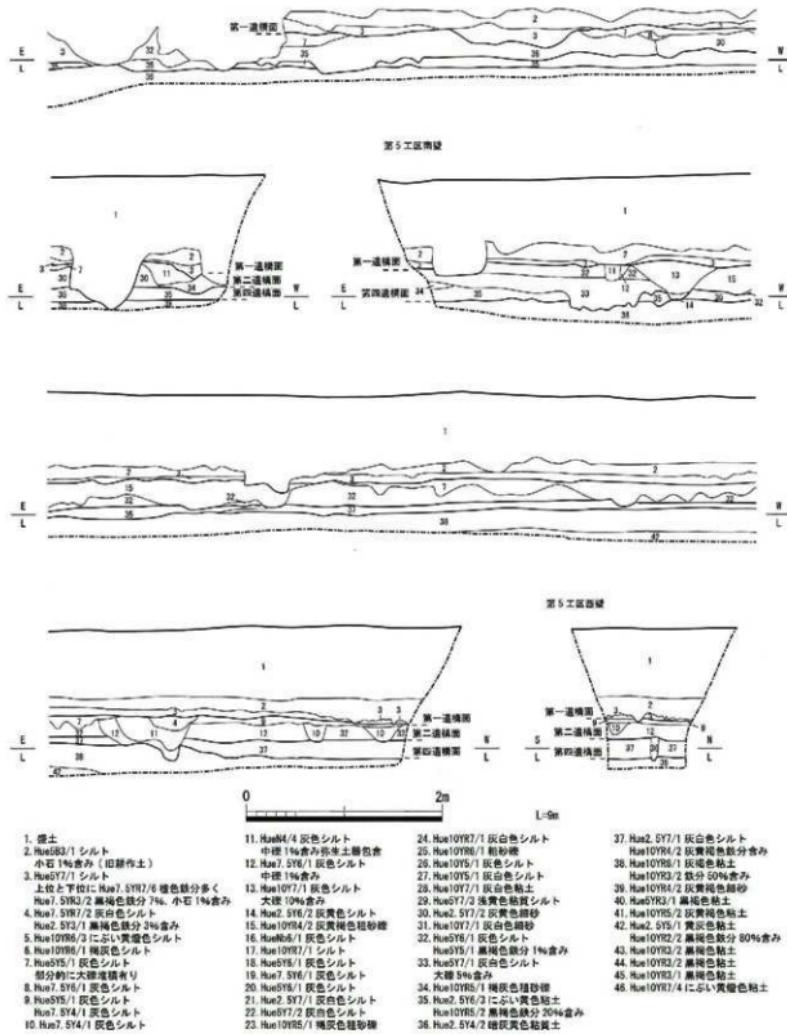
第4工区地盤



第4工区地盤



第5図 調査工区土層図-2 (1/50)



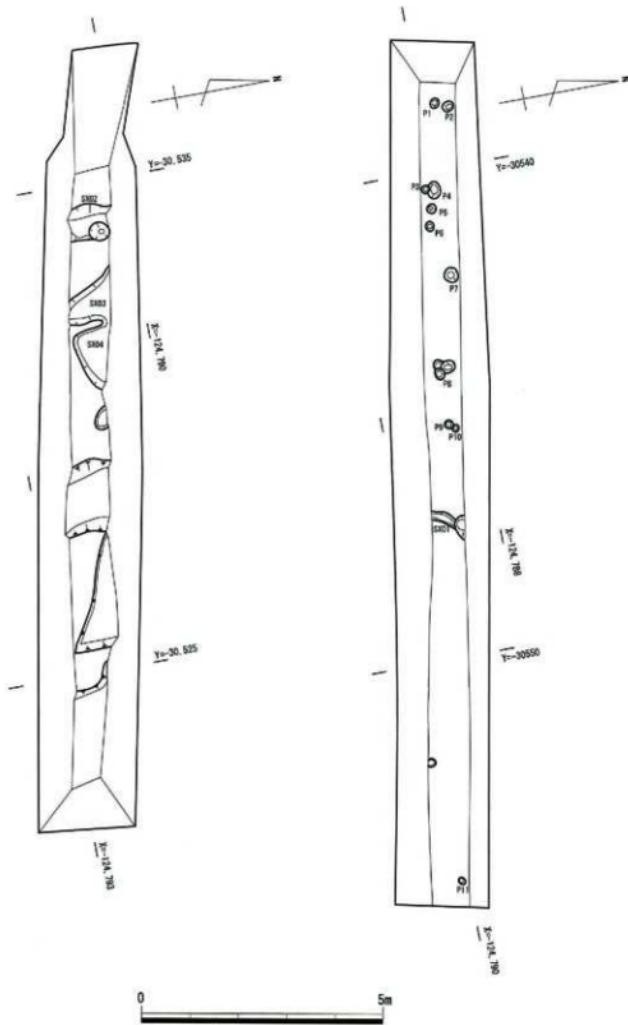
第6図 調査工区土層図－3 (1/50)

と思われる石片1点が出土した（図版四（1）1～9）。ほかに、14世紀の樟葉瓦器椀口縁部小片1点が表掲されている（図版四（1）10）。

これらのうち、図化できたのは第8図に示した3点のみである。1は、弥生時代中期の鉢形土器口縁部片である。口縁部は外反して短く広がり、端部は丸くおさめている。きめ細かい胎土に1～2mm程度の石英砂粒を5%程度含む。焼成は良好で、橙色の色調である。第4工区第38層から出土した。2は、弥生時代中期の底部片である。壺形か鉢形土器になると思われる。素地は、1と同様の質感である。胎土の砂粒は、1ほど目立たない。焼成は良好で、にぶい橙色の色調である。第3工区第38層から出土した。3・4は壺形土器の口縁部片で、第1工区第38層から出土した。3は、口縁端部を丸く処理している。色調は橙色で、胎土には赤色粒子や石英砂粒を5%程度含む。4は、口縁部内面ヨコハケで、口縁端部は外面側にわずかに肥厚させて丸く処理している。いわゆる如意形口縁である。色調は浅黄橙色で、素地は少し砂質感があり、胎土には石英・長石砂粒や赤色粒子を含む。5は、第1工区整形時に出土した壺形土器の口縁部片である。口縁端部を外面側に肥厚させて狭い端面をつくり出し、端面に波状文を施している。色調は、浅黄灰色で、胎土に砂粒を5%程度含む。6は、第3工区第38層から出土した。器形は、壺形土器の口縁部片と思われる。内外面はナデ調整で、端部は丸く処理している。色調は橙色で、胎土に石英・長石・チャートなどの砂粒を含む。

石器類には7と8がある。7は、石皿の破片と思われる。この破片の狭い2面に礫面が残り、広い面をなす2面は破損面である。礫面が残存する2面に磨滅痕が観察でき、非常に滑らかである。礫面の残存面には、火を受けて橙色に変色している部分がある。破損面の観察から、破損前に火を受けたと思われる。火を受けた痕跡は、この石片出土地点に隣接する焼土塊集積と関連する可能性がある。石材は、閃綠岩と思われる<sup>(3)</sup>。この石片は、出土層が石を全く含まない第38層からであり、しかも擦り合わせによる平滑な礫面が観察できることから、石器の破片と判断した。図化できなかったサヌカイト剥片（8）は、二上山産と思われる。表面は灰色に風化している。大きさは、幅約0.7cm、長さ約1.7cm、厚さ約0.1cmで、非常に薄い。重さは、約0.253gを測る。石皿と思われる石片とサヌカイト剥片の所属時期は、第38層出土土器などから、弥生時代中期前葉の所産と思われる。

このほか、壺形土器の体部片などが、第38層を中心に出土している。その中に、角閃石を多く含む生駒西麓産の土器片が1点含まれている。施文されたものはなかった。出土した弥生土器は、壺形土器や鉢形土器の口縁部を丸く処理されたものが多いこと、狭い口縁端面に波状文を施したものがあること、壺形土器の口縁部径が体部最大径とほぼ同じか、大きいと考えられることなどの特徴から、畿内第II様式後半を中心とした時期に比定できる。これは、青葉遺跡A<sup>(4)</sup>・B地点出土弥生土器の時期とほぼ同じであり、青葉遺跡が短期間の集落遺跡であるこ



第1・第2遺構配置図 1/100

第7図 第1・第2工区遺構配置図 (1/100)

とをうかがわせる。

### (5)まとめ

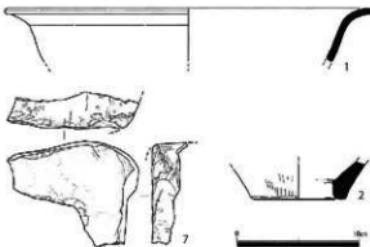
当調査対象地の周辺部は、条里制地割が良好に残る地域である。旧小字名は筒本である。対象地西辺は、北東—南西方向の西国街道に面している。周辺部の発掘調査事例をみると、西国街道をまたいだ当対象地の北西約15mや、当対象地内での調査がある。前者の調査では、弥生時代中期や古墳

時代中期、飛鳥～奈良時代の遺物散布が確認され<sup>(5)</sup>、青葉遺跡A地点と名付けられた。後者の調査では、弥生時代中期の良好な一括土器群が出土し<sup>(6)</sup>、青葉遺跡B地点と名付けられた。また、当対象地の北西約250m付近では、大阪府教育委員会や本町教育委員会が桜井駅跡遺跡等に関連した調査がなされている。そこでは、弥生時代前期・中期前葉・後期、古墳時代後期、奈良時代、中世等の遺構・遺物が確認されている<sup>(7)</sup>。

このような周辺部の調査成果や歴史地理的位置環境にある中、当調査の検出弥生時代遺構配置をみると、東部（第2工区）の不定形土坑群と、西部（第1工区）の柱穴状遺構群に分けられる。これになんらかの意味があると思われるが、性格は分からぬ。また柱穴状遺構群は、埋土の違いから3期の変遷が考えられる。しかし、黒色系埋土を持つ柱穴状遺構群が弥生時代の所産と考えられる以外、時期を推定する手掛かりはない。また、当調査では、弥生時代遺物包含層を捉えることができた。しかし、出土量は少なくしかも小片ばかりで、完形に復元できるものはなかった。このことから、当調査に先立って実施された青葉遺跡B地点で出土した一括性が高く、完形に復元しうる土器を含んだ土器群の出土意義を深く検討する資料には恵まれなかつた。

第1・5工区の第38層内や第2工区第42層上面で検出した焼土塊集積は、明確な輪郭や掘り込み面を捉えきれなかつたこともあり、性格は不明である。大胆に推測すれば、第38層が弥生時代遺物包含層であることや、焼土が面をなさないことから、弥生時代の炉跡または野焼き跡の損壊による集積と考えることができる。焼土塊集積は、火を受けた石皿と思われる石片の近くから出土したことと併せて考えると、弥生時代の所産である可能性が高く、興味深い。

今回の調査では、中世の成果として、瓦片1点と14世紀の瓦器椀小片1点があるのみである。近隣の調査<sup>(8)</sup>では、鎌倉～室町時代の遺構や遺物が確認されている。当調査出土中世遺物は、これに関連しているものと察せられる。しかし、当調査では、ほかに中世遺構や遺物は確認で



第8図 出土遺物実測図 (1/4)

きず、中世条里や西国街道および、近在する桜井駅跡遺跡に関連する資料は得られなかった。周辺部での発掘調査が増加すれば、当調査の検出遺構の性格や各遺構および各土層堆積の時期、出土遺物の意義などが鮮明になってくるものと思われる。

【註】

- (1) 木村 友紀 2015「平成27年度青葉地区遺跡範囲確認調査」「島本町文化財調査報告書」第30集 平成28年 島本町教育委員会
- (2) パリノ・サーヴェイ株式会社 让 康男 2013「広瀬遺跡の自然科学分析」第14回遺跡周辺の地形分類図による。「大祓淨水場送水施設整備(土木・建築)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」広瀬遺跡発掘調査報告書」「島本町文化財調査報告書」第24集 平成25年 島本町教育委員会
- (3) 石材は、高田クリスタルミュージアム 高田雅介氏に鑑定していただいた。記して感謝する。
- (4) 中津 梓 2007「広瀬地区・青葉地区遺跡範囲確認調査－2 平成18年度青葉地区遺跡範囲確認調査」「島本町文化財調査報告書」第10集 平成19年 島本町教育委員会
- (5) (4) 同
- (6) (1) 同
- (7) 一瀬 和夫ほか 2007「一般府道桜井駅跡線自歩道・主要地方道西京高槻線歩道整備工事に伴う調査」「桜井駅跡発掘調査概要」大阪府教育委員会  
中津 梓 2006「桜井駅跡遺跡範囲確認調査概要報告」「島本町文化財調査報告書」第8集 平成18年 島本町教育委員会  
中津 梓 2006「平成17年度都市計画桜井駅跡線(駅前広場)整備に伴う桜井駅跡遺跡発掘調査概要報告」「島本町文化財調査報告書」第9集 平成18年 島本町教育委員会  
中津 梓 2008「平成18年度桜井地区遺跡範囲確認調査概要報告」「島本町文化財調査報告書」第11集 平成20年 島本町教育委員会  
中津 梓 2008「平成19年度史跡桜井駅跡確認調査概要報告」「島本町文化財調査報告書」第11集 平成20年 島本町教育委員会
- (8) (1) (4) (7) 同



第9図 調査着手前の工区設定風景（南東から）

付表2 報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうきはうこくしょ						
書名	島本町文化財調査報告書						
副書名	青葉遺跡B地点発掘調査概要報告						
卷次							
シリーズ名	島本町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第33集						
編著者名	岩崎 賦、木村 友紀、坂根 晴						
編集機関	島本町教育委員会事務局 教育こども部 生涯学習課						
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 Tel.075-961-5151						
発行年月日	平成30年3月31日						

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村						
あおばいせきびーちでん 青葉遺跡B地点 (AB16-1 簡本)	しまもとちょうあおば 島本町青葉一丁目 179-1	27301	27	34° 52° 51°	135° 39° 37°	2016.4.1 ~ 2016.4.20	約162m <sup>2</sup>	共同住宅建設工事に伴う記録保存削除
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
あおばいせきびーちでん 青葉遺跡B地点 (AB16-1 簡本)	集落	弥生時代 難倉時代	小穴・土坑	弥生土器・石器・サヌカイト剥片・瓦器輪・瓦	青葉遺跡B地点からの弥生時代中期遺物包含層の広がりを確認。			

図 版





(1) 第2工区全景（西から）



(3) 第2工区土坑S X02（西から）



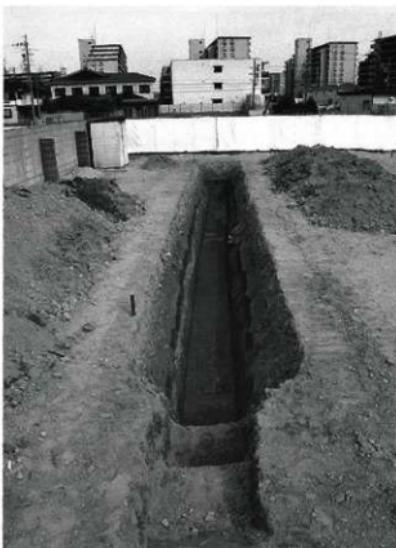
(2) 第1工区全景（西から）



(4) 第2工区土坑S X03・X04（西から）



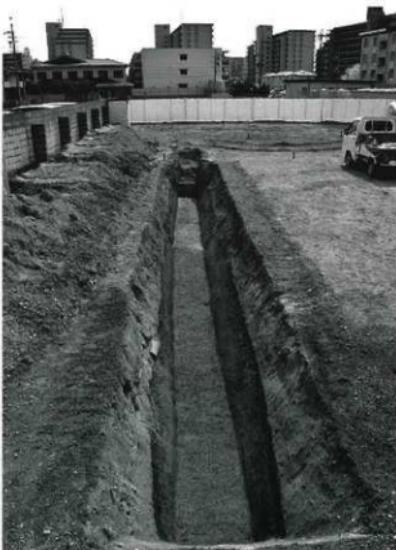
(1) 第3工区全景（北から）



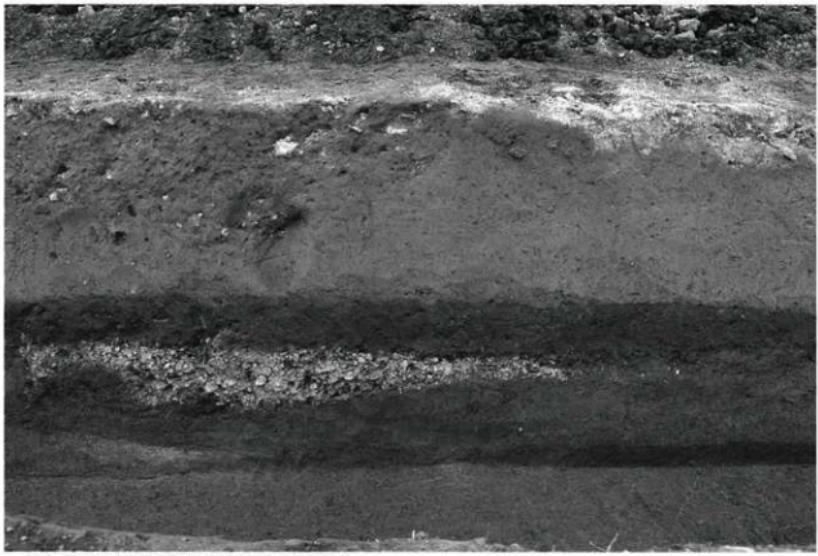
(3) 第4工区全景（西から）



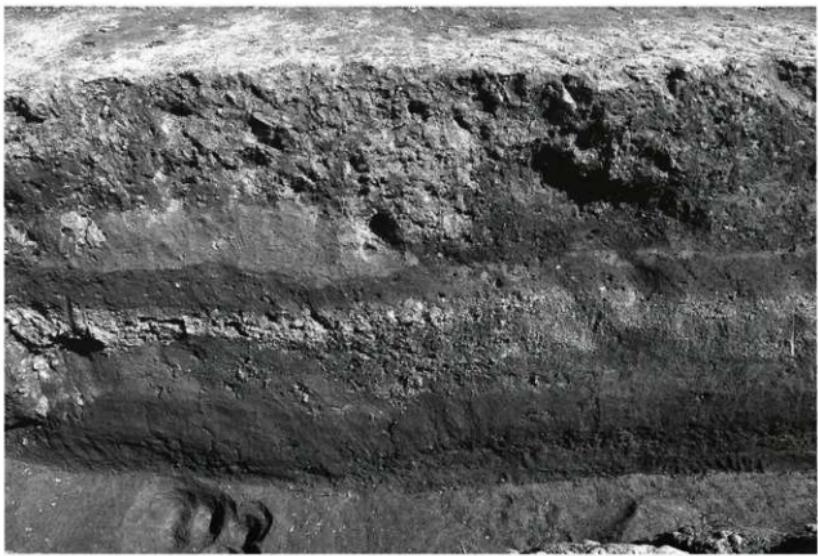
(2) 第4工区土器出土状況（東から）



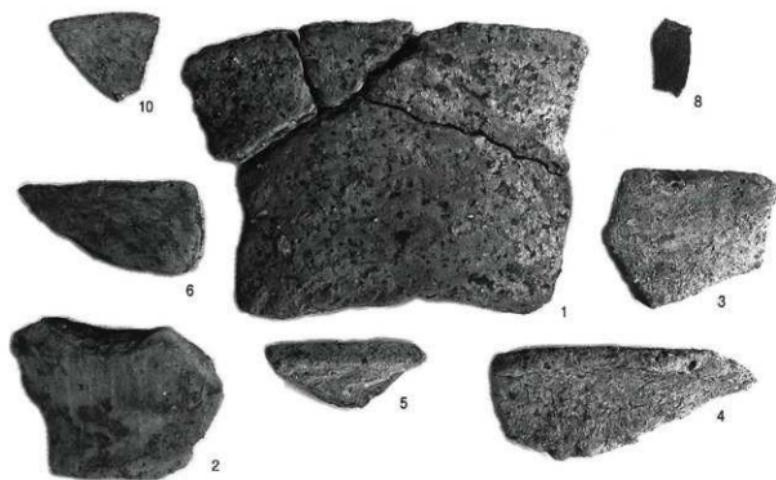
(4) 第5工区全景（西から）



(1) 第3工区洪水流路堆積砂礫（西から）



(2) 第2工区洪水流路堆積砂礫（南から）



(1) 出土遺物



(2) 出土瓦



(3) 出土石皿

## 島本町文化財調査報告書 第33集

発行	島本町教育委員会 〒618-8670 大阪府三島郡島本町板井二丁目1番1号 TEL 075-961-5151
発行日	平成30年3月31日
印刷	三星商事印刷株式会社 〒604-0003 京都府京都市伏見区深草塚下舟前町300 TEL 075-256-0961





